

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>上位目標： 家事使用人として働く少女たちが自分自身を尊重し、成長していけるようになるための活動が実施されることで、家事使用人として働く少女が減少する</p> <p>達成度： 期間中に実施したノンフォーマル教育、医療支援、職業訓練を通じて、少女たちが今まで得られなかった知識や技術を学び、身につけることができた。また地域住民や雇用主を含めた啓発ワークショップなどを通じて、少女たちの周辺の大人たちが子どもの権利を理解し、権利を守っていく必要性を理解してもらうことができた。 チッタゴンで家事使用人として働く少女たちが、雇用主からの暴力や性的虐待、搾取、仕事上の事故から守られる環境に近づいたと言える。 一方、家事使用人として働く少女が減少するまでには至っていない。期間中に実施した都市部と農村部での調査活動によって、少女たちが家事使用人として都市部に送り出される要因と雇用する側が少女の家事使用人を必要とする理由を知ることができた。今後は調査結果をもとに、家事使用として働く少女を減らしていくという課題解決に向け、中長期的な計画を立案していく。</p>
(2) 事業内容	<p>チッタゴン市内の2つのセンター運営を予定通り継続し、予定していた以下の事業を実施した。</p> <p>ノンフォーマル教育 2つのセンターで各50人ずつ、計100人の少女に基礎的な読み書きや計算を学ぶ機会を提供した。 会場：各センター 講師：スタッフ</p> <p>医療支援 少女たちが仕事中に怪我をした場合に備え、応急手当ての方法について勉強するセッションを開催。絆創膏の使い方や火傷（やけど）への対応など、簡単な対処方法を学ぶ機会を提供した。また身の回りを清潔に保ち病気を防ぐための衛生教育を実施した。</p> <p>職業訓練 アイロンかけ、刺しゅう、料理、ミシンを使用した縫製トレーニングを実施した。少女たちの技術向上と、技術向上によって雇用主との関係がより良好になることを目的とした。</p> <p>地域住民等への啓発活動 本事業の目的や進捗状況を共有したり、子どもの権利についての啓発ワークショップを実施した。</p>

	<p>調査活動および中長期計画の立案</p> <p>チッタゴン市内および近郊の農村部において、個人インタビューやグループディスカッションの形で計 546 人（家事使用人として働く少女、その保護者、雇用主、地域住民等）を対象にした調査を実施。農村部から都市部に家事使用として少女が送り出される要因、都市部で家事使用人として少女が雇われる要因を調査した。これらの調査結果にもとづき、今後の中長期計画の立案に向けた分析作業を継続した。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>2つのセンター運営を予定通り継続し、当初に想定していた裨益者数（家事使用人として働く少女）を達成することができた。雇用主世帯への個別訪問を繰り返してきた成果として、本事業へ理解を示す住民が徐々に増えてきた。自分の家で働かせている少女を、センターへ通わせるようにする雇用主が増加してきていることから、そうした傾向がみてとれる。</p> <p><b>【事業当初に想定した裨益者数と結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事使用人として働く少女 想定 100 名        ※うち 6 名は途中から学校に通い始め、2 名は家族でダッカに移転したため途中からセンターへ通学していない。</li> <li>・少女たちの雇い主とその家族 約 400 名</li> <li>・少女たち自身の家族 約 400 名</li> <li>・少女たちが働く地域の住民 約 2,000 名</li> </ul> <p><b>【事業当初に想定した期待される効果と結果】</b></p> <p>インフォーマル教育（読み書き、計算、保健衛生教育）        職業訓練（アイロンかけ、刺しゅう、料理）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く少女たちが新しい技術や知識を身につけた結果、仕事が効率化し、生活環境ならびに雇い主との関係が改善された。</li> <li>・85 名の少女が簡単な読み書きや計算ができるようになった。        （自分の名前を英語とベンガル語で書けるようになり、簡単な計算試験に合格した）</li> <li>・センターに通う少女の 1/3 以上が、センターに通う前に比べて病気になる頻度が減ったと感じている。</li> <li>・センターに通う少女の 1/3 以上が、新しく獲得したスキルによって給与が増加するか、追加的な収入を得られるようになった。</li> </ul> <p>啓発活動</p> <p>雇用主が少女たちに対する認識を改めることで、彼女らに対する暴力および不当な扱いが減る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターに来る少女たちの半数以上が、雇用主の態度が良いほうに変化したと感じている。</li> <li>・活動がメディアなどで取り上げられた。(10 回)</li> <li>・15 名の少女が、ワークショップ等を通じてセンターの存在を</li> </ul>

	知った子どもたちが新たにセンターに通い始めた。
(4) 持続発展性	引き続き2つのセンター運営を継続するとともに、地域住民とのコミュニケーションをさらに密にし、働く少女の置かれている状況への理解が深まるようにする。地域の知識層やコミュニティグループなどの参加を促しながら、会合の頻度を増やしていく方向で進めていきたい。また、日本から事業担当者、専門家を派遣し、本事業の期間中に実施した調査結果を精査しつつ、課題解決に向けた中長期的な活動計画の検討を進めていく。